

NBKフェスタ 2010 in 兵庫

実施報告

11月12日(金)、「NBKフェスタ 2010 in 兵庫」を神戸市産業振興センター及び神戸コンチェルト号に於いて開催した。

今年度の開催地兵庫では、『New Waveを活かした地域の発展を』をテーマに、「研究機関等の知的資産や文化資産」を体感していただき、6コースの視察及び講演会を設け、府県を越えた『知り合う場』、『新たな発見の場』とした。

全体は3部構成で、第1部は会員選択方式による「神戸見学会」、第2部は「NBK大賞2010」選考会、第3部は神戸ハーバーランドから出航する「コンチェルト号」船上で、「NBK大賞2010」表彰式とニュービジネスに関係のある方々が集う「交流会」を実施した。

会場には延べ296名の会員企業やニュービジネス関係者が集い、大変な賑わいとなった。



◆神戸見学会

数ある政令指定都市の中でも、特にさまざまな新しい施策を打ち出し、地域発展につとめている、神戸。

兵庫ブロック会員が、そんな“神戸”の代表的な企業や施設にご案内し(6つの体感コースをご用意)、知的資産や文化資産にふれていただいた。

Aコース…『講演会』

神戸ベンチャー研究会の10周年記念事業である「第10回神戸ベンチャーフォーラム」と連携して開催した。

テーマは、「農業とベンチャー/地域活性化のイノベーション」。

今回の2人の「社会イノベーター」による基調講演は、会場がほぼ満席となった。

まず、一人目は、耕作放棄地の問題から農業を復興させたいとの思いで起業し、多くのマスメディアに取り上げられているマイファームの西辻一真社長である。

28歳の若者が、会社の経営に加えて、農林水産省の政策審議委員として日本全体の農業問題を考えて活躍されている。温厚な人柄の中にある熱い心のにじみ出た非常に内容の濃い素晴らしい講演であった。農業(AgriCulture)を、Agri(農)とCulture(文化)という2つの側面から考えること。農業を、単なる生産ではなく、農業をととして人々の豊かな暮らしを支える文化的事業と考えること。そう考えると、そこには無限の可能性が広がる。具体的には、趣味・娯楽、教育、福祉・介護、医療・健康、環境など。株式会社マイファームは、「自産自消の世の中を作る」という企業理念のもと、農業を生産ではなく、文化的事業ととらえ、これまで耕作放棄地を有効活用した体験農園、幼児食農教育、障害者支援、園芸療法、婚活まで幅広い事業を展開。創業から3年で52箇所の農園を開設され、大きな転換期を迎える農業に、多くのビジネスチャンスがあると締めくくられた。

2人目は、鳥取県境港市のNPO未来守りネットワークの奥森隆夫理事長で、今年度、環境省水・大気環境局長から「水・土壌環境保全活動功労者」として表彰された。

地元漁業者と協力して、中海(なかうみ)の海藻を採取・たい肥化し米作りに活用することで、中海に貯まった窒素及びリン等の栄養塩の系外排出を図っておられ、地域の水環境保全活動においてモデル的な役割をはたされている。お土産に海藻肥料で栽培した海藻米と海藻サツマイモが参加者全員に配られた。今、有機農法の野菜としてブランド化され、非常に注目されている。



株式会社マイファーム 西辻社長

講演の後、講演者2人と海藻研究の第一人者である新井省吾氏とリ・ブランディングジャパン代表の高田雄生氏の4人をアシストワン松本茂樹がコーディネートしてパネルディスカッションを開いた。このイベントの趣旨を踏まえて「元気会」を作り、今後地域活性化の他地域交流を進めていくことが決まった。

(Aコース担当 株式会社アシストワン 松本茂樹)

Bコース…『次世代スーパーコンピュータ』

心配していた朝からの雨もあがり、神戸新交通「ポートアイランド南」駅に集合。次世代スーパーコンピュータが設置される「理化学研究所計算科学研究機構」までは徒歩1~2分の距離。ロビーでの構造模型による説明を受け、研究棟と計算機棟地下の免震構造を見学した。

今年(平成22年)7月に、一般公募により「京(けい)」という愛称が決まった。「京」とは、このスーパーコンピュータが、1秒間に1京回、すなわち「10の16乗」回の、足し算、掛け算ができる性能であることに由来している。建物の玄関前には、そろばん玉を16個積み上げた形のモニュメントが据えられている。「京」の完成は平成24年6月と予定されていて、すでに一部のハードウェアの設置が始まっている。

今年6月に竣工した建物は、計算機棟、研究棟、特別高圧変電施設、熱源機械棟からなる。計算機棟は、計算機室(3階にスーパーコンピュータ、1階にファイルサーバー群)と空調機械室(2階と地下1階)が配置されている。

「京」は、現時点で最高速(パソコンより一桁以上速い)のCPUを、なんと8万台以上同時に並列運転する構造で、これにより目標とする超高性能を実現する。各CPUは互いに隣接するCPUと3次元6方向に接続され全体が連携するようになっているという。CPUの発熱を冷却するためにラック(筐体)には空冷に加え水冷配管が巡らされている。計算機棟は震度6強に耐える防震構造になっていて、建物の鉄骨構造全体を49個の大きな積層ゴム免震装置で支え、揺れを抑えるU型鋼性ダンパー、震動エネルギーを熱変換する鉛ダンパーを備えている。

どんな研究に役立つのかを質問したところ、今まで行えなかった大規模なシミュレーションを可能にするもので、具体的なテーマのひとつが、気象・気候の分野であるとのこと。太陽の放射を地球が受けたり地球の熱を大気に発散する際には雲の状態が大きく影響する



(日傘効果と温室効果)が、現状ではひとつひとつの雲(積乱雲)の大きさよりも粗い(数十キロメートルの)メッシュでしかデータを扱えず、ミクロな物理現象が気象にどのようなつながるかを地球規模でシミュレーションすることができない。「京」の性能が発揮されれば、たとえば炭酸ガスの増加がどのような気候変動をもたらすか、台風の発生にどのような影響が生じるかなどを解析し予測することが期待されるという。

事業仕分けで話題になったスーパーコンピュータであるが、科学技術発展のインフラとしての意義を強く感じた見学であった。

(Bコース担当 赤松秋雄)



谷岡一治氏(NBK常任理事)による写真展 併催

当日、受付前ロビーにて、「谷岡一治氏による写真展(NBKロシア極東産業視察団)」を開催。

参加者から、「良かった」「このような活動報告・展示を今後も是非おこなってほしい」との声をいただいた。



Cコース…『神戸医療産業都市構想関連施設』

関西の産学連携のもと、ポートアイランドを中心に高度医療技術の研究・開発拠点を整備し、医療関連産業の集積を図り、(1)雇用の確保と神戸経済の活性化、(2)先端医療技術提供による市民福祉の向上、(3)アジア諸国の医療水準の向上による国際社会への貢献を目指した神戸医療産業都市構想の主要関連3施設を13名で見学した。

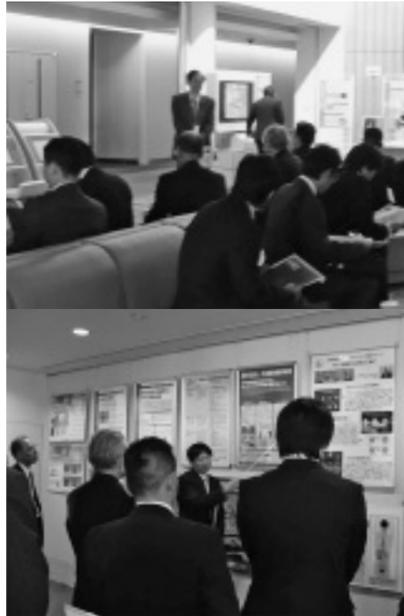
まず、神戸キメックセンタービル10階展望ロビーで窓越しに、神戸医療産業都市構想の中核施設を紹介していただいた。展望ロビーからの眺めは素晴らしく、建設中の施設や進出企業も確認することができた。

続いて、基礎研究から臨床応用橋渡し研究を推進するための情報拠点として、わが国で初めて整備された神戸臨床研究情報センターを見学した。市民への情報発信として、2階の展示コーナーでは先端医療に関するビデオ映像放映やバーチャル実験システム等が用意されていた。また、インターネットによる情報発信では、米国国立がん研究所が発信する「がんに関する最新情報」を日本語で届けていることも紹介された。

最後に再生医療研究開発、映像医療研究開発、医薬品開発・支援の3分野で、基礎から臨床への橋渡し機能を担う先端医療センターを見学した。病院の機能(病床数60床)を備えており、標準的な医療では対応困難な疾患を克服するため、映像医学、臨床研究、再生医学の分野で先端治療を実施している。再生医療研究開発では血管再生治療、映像医療研究開発では高精度放射線治療装置システム等を紹介していただき、医療機器では脳動脈瘤にカテーテルを使用してプラチナコイルを入れる脳アンギオを説明していただいた。

今回の見学を通して、神戸医療産業都市構想は計画が着実に進められており、日本のみならず世界の医療産業の中核なることを見学者全員で期待した。

(Cコース担当 住友ゴム工業株式会社 片岡一良)



Dコース…『灘五郷 酒蔵めぐり』

朝方の横殴りの通り雨が止み、雨に洗われた住吉川の河原に秋の日が降り注ぐ午後、13名ほどのNBKメンバーが兵庫の灘「魚崎郷」の酒蔵を巡った。正午、阪神魚崎駅に集合し、こんな市街地になのに・・・といった清流を見ながら川筋に沿い南へ。雨上がりにもかかわらず季節外れの黄砂の影響で少しもやっような秋空の下、最初の蔵である「菊正宗」の記念館へ。この建物も平成7年1月の阪神淡路大震災で倒壊したものを掘り起こして再建、看板なども昔の書家の手になるものを修復し再掲示、昔日の雰囲気を残し情緒が漂っていた。



ここ灘の酒造りは、酒造りに適した米と良質の水(六甲の宮水)といった「素材」と、丹波杜氏をはじめとする「技術」に、これからの季節に吹く六甲風が温度や湿度に微妙に好影響を与える「環境・風土」とが一体となっとうまれたものだそうだ。この蔵のお酒はコクがありキレのある味わいを誇り、名前のご縁からも秋に皇室にも献上されるという。朝しぼった生酒を試飲。美味しいが、まだ粗いお酒だそうで沢山は飲めないという。

少し東へ歩いて5分、次の見学先「浜福鶴」さんへ。名物案内人の宮脇米治さんから説明を聞く。山田錦という酒米は、六甲山の北方で寒暖の差が大きな気候の地域、播州から吉川、三田にかけて生育する品種で米粒が大きく、精米する必要のある酒米として最適。6割から5割くらいまで磨き上げる「精米」によって日本酒造りが始まる。麴を加えて発酵させるお酒を育てる過程では、時計の無かった時代には杜氏達の作業は彼等が謡う節回しによって作業時間を調節していたという話や、杉の枝を束ねてボール状にした杉玉(酒林)が最初は緑色で、これが時を経て茶色になるころ仕込んでいたお酒が飲み頃になるといった蘆蓄を聴いてからの試飲の格別の「味」のあること……。お造りのそれぞれの工程毎に「試し飲む」至福の時はアツという間に過ぎ、少し気分の高揚した赤ら顔の団は第二部の行われる神戸の会場へと向かった。

(Dコース担当 シスメックス株式会社 三浦隆司)

Eコース…『ホテルセトレ』

ホテルのロビーに入ると真正面に明石海峡大橋と瀬戸内海が広がり、遥かに淡路島が見える。そんな素晴らしいロケーションにあるホテルセトレは、株式会社ホロニック社が直営する新しいスタイルのコミュニティホテル。地域の人たちに支持され、ハレの場にも使ってもらえるなど、その地域のお客様に繰り返し利用していただけるホテルをつくるというのが評価され、昨年度NBK大賞を受賞した。遠方のお客様をわざわざ広告宣伝費を掛けて集客しなくても、その地域の生活圏内のリピート需要を大切に取込みもうというビジネスモデルだ。「地域顧客・地域雇用・地産地消」をキーワードに地域の人にとって「第二の我が家」「地元のゲストハウス」を目指している。そのためにはいつも「Welcome back」(おかえりなさい)の気持ちでお客様を迎えるのだという。

昨年は概念を聞き感心したNBKメンバーが、今回は実体験をするべく見学会に参加した。

朝の雨模様とは打って変わって心地よい秋の日を浴びながら舞子の駅を降り、(確かに便利な駅前には立地してなくて)孫文ゆかりの「移情閣」を横目に見ながら舞子公園を数分歩くとホテルに到着。全客室数あわせても24室ほどの可愛いホテルだが全ての部屋がオーシャンビューで景色が素晴らしい。チャペルも明石海峡と大橋を借景に、独特の空間を設計している。憩いの場を意識しているだけあって、確かに昼時でもエステやレストランを利用している近隣のお客様(主婦)らしい人たちが何人もいる。ゆっくりと海を眺めている姿が何故か景色に溶け込んでいて、聞いて来た雰囲気以上のモノと感じた。「What is リゾート型コミュニティホテル?」と思って参加した自分のような地元の人間にも新鮮で少し納得出来る体験だった。もちろん今回のコース用にスペシャルランチ(安価にご提供いただいたが)を用意していただいていたが、これも絶品の素晴らしいイタリアンだった。また来たい。

(Eコース担当 株式会社ケイエスエス 川崎正勝)



Fコース…『シスメックステクノパーク』

神戸市の西区にあるシスメックスの研究開発拠点の見学には10名ほどが参加された。当日は朝からの雨が心配だったが、午後には晴れ間が見えるほどで見学のころにはとてもよい天候に恵まれ幸運だった。というのも、このテクノパークの見所の一つが緑に包まれた公園のような広い庭園のイメージだからである。

テクノパークは敷地の半分以上を緑地帯としており、環境への配慮とともに技術者・研究者の発想を刺激するよう工夫されている。緑地帯の中の歩道はラバー材質でできており、ランニングコースにもなるところが女子陸上競技部を持つ企業らしいところ。「カルチャーなくしてサイエンス、新しいテクノロジーはない」との社長の考えから、新たな発想力を刺激するよう地元兵庫出身の作家によるオブジェが多数、いたるところに設置されていて面白い。また世界の各地から研究者が集って来ても、ゆったりとした環境の中で日本オリジナルなカルチャーも楽しめるよう日本庭園の中に本格的な茶室も建てられている。

研究開発の建物は10階建てで1フロアのスペースも広く、執務場所と実験室などのセパレートの見学メンバーがよく見えるように工夫されている。上下の階が違ってもコミュニケーションの活性化を楽に図れるよう吹き抜け型のミーティングスペースが用意してあるなど開放的な空間に設計されている。見学メンバーは、その建物の一角に展示してあるシスメックスの製品一号機についての説明を受けた。現在とは全く様子が違う昭和40年代の臨床検査の様子がDVD映像で流れており、この分野の機器の進歩がよく理解できる。玄関横にも見学者向けに特別のスペース(テクノキューブ「間」)があり、シスメックスの創業からの歴史、技術等をモニター映像で見ることができる。

参加された皆さま、当日はあわただしく駆け足の見学となりました点をご容赦ください。またの機会をお待ちしています。

(Fコース担当 シスメックス株式会社 轟木康裕)

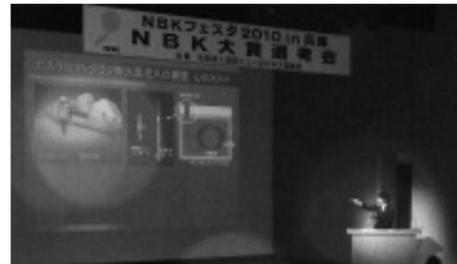


◆「NBK大賞2010」選考会・表彰式

各ブロックより選出された候補企業が公開プレゼンテーションを行った上で、NBK会長/副会長を核とする審査員による即日の大賞選考が行われた。

結果、今年度のNBK大賞は株式会社アイスティサイエンス（佐々野僚一社長）に決定。立野純三NBK会長よりNBK大賞、近畿経済産業局永塚誠一局長より近畿経済産業局長賞の表彰状がそれぞれ授与された。

尚、昨年度より最優秀社1社のみNBK大賞・近畿経済産業局長賞を授与、大賞受賞者に対する支援ニーズの確認を行い、大賞受賞者のニーズにあった実効性の高い経営支援を行うことによって「ニュービジネス成功事例の創出」を実現させることを新たに目的に加えている。



「NBK大賞」「近畿経済産業局長賞」
株式会社アイスティサイエンス
代表取締役 佐々野 僚一 氏



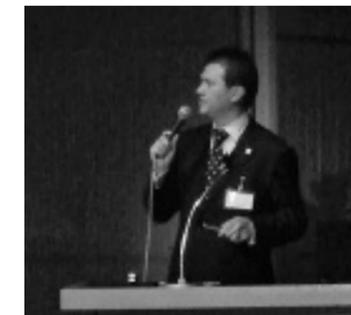
宮田由紀夫 氏
NBK大賞選考委員長

宮田由紀夫NBK大賞選考委員長より選評

「本年度は『ニーズをいかにとらえているか』『スイッチングコストを上回る性能があるのか』『NBKとして支援していけるか』等の観点から審査いたしました。

結果、大賞は高い技術力を持ち、また、今話題の(残留農薬分析による)食の安全というニーズの高い事業を行っておられる株式会社アイスティサイエンスに決定しました。今後の成長に期待します。

また、今回大賞に選ばれなかった企業への会員企業様個々の支援も是非お願いいたします。」



なお、大賞選考中、昨年
の大賞受賞者 株式会社
ホロニック 長田一郎社長
が、事例報告を行った。

【NBK大賞・近畿経済産業局長賞】

	対象事業	食の安全と安心を目指す農薬分析装置の開発	
	会社名/URL/E-mail	株式会社アイスティサイエンス	
	代表者/所在地/TEL/FAX	代表取締役 佐々野僚一（ささのりょういち） 〒640-8341 和歌山県和歌山市黒田120-6 アソート黒田2F	
	URL	http://www.aisti.co.jp	
	E-mail	sasano@aisti.co.jp	
会社設立	2006年4月6日	従業員数	7人
資本金	30,000千円	売上高	121,882千円
事業概要	食品等に含まれる残留農薬を分析するために、ガスクロマトグラフによる測定が行われている。この測定作業に際しては、試料の濃縮・分離・抽出など複雑な前処理が手作業で行われており、効率面・精度面で課題がある。同社では、前処理作業の効率化と精度向上に寄与する自動前処理装置の開発を行っており、残留農薬の社会問題化を背景に、各分野にわたるユーザー業界を通じて社会に貢献できる。		

◆「NBK大賞2010」交流会



【各ブロック賞】

- 【大阪ブロック】 株式会社デジタルマックス (大阪府吹田市) EcoCatポータル、無料完全自動デジタルカタログ製作サイト
- 【京都ブロック】 株式会社旅のお手伝い楽楽 (京都市中京区) 京都バリアフリー観光サポート事業
- 【兵庫ブロック】 エフアイエス株式会社 (兵庫県伊丹市) 産業分野の微量ガス及び医療分野の呼気ガスの高感度計測
- 【滋賀ブロック】 高橋金属工業株式会社 (滋賀県長浜市) 排水中のリン・フッ素を吸着・除去・再資源化できる吸着剤「エコリッジ」と、これを利用した「資源回収装置」の開発
- 【奈良ブロック】 第一化工株式会社 (奈良市) 電気も傘袋も使わない雨傘しずく取りの製造・販売

本年は、神戸ハーバーランドから出航する「コンチェルト号」の船上で表彰式・交流会を行った。

交流会では、神戸ベンチャー研究会からもご参加をいただき、約120名が夜の神戸の町並みなど素晴らしい景色を眺めながら親交を深めた。

また、来年度のNBKフェスタ開催地である大阪ブロックの代表 大川真一郎NBK副会長より中締め挨拶が行われた。(尚、来年度のNBKフェスタは、JNB全国大会(第7回新事業創出フォーラム)との併催にて行われることが紹介され、JNB全国大会実行委員長を兼ねる大川副会長よりJNB全国大会への協力の依頼も併せて行われた。)